

# 負けの教え

鳥取市立北中学校 三年 小谷 清野

スポーツっていいな、そう思う瞬間がある。自分の努力が結果として出た時。応援していたチームが勝った時。数えだすときりがないが、私はこの夏、負けたにもかかわらず、この競技をしてきて良かったと思えた。

私は部活動で弓道をしてきた。すごく難しくて、うまくいかない時の方が多い。七月に行われた県総体で、私たちの団体はあとちよつとのところで、決勝進出を逃した。これまでも悔しい思いをしてきた。弓道でも、陸上でも、小さなことを言えば、体育の授業でもある。その度に悔しさが募って、次こそと燃えていた。でもこの時、私は結果がずっと胸に入って、収まった。もちろん悔しかったし涙も出たけれど、案外すっきりしていて、決勝を戦う他校の友達を応援していた。もう次はない。引退なのだということもあったかもしれない。やり抜いた、終わったと肩の荷が下りた気分だった。

そして気づいた。何かをやり切ると結果がどうであれ、こうやって終わるのだということだ。一緒に戦った仲間も晴れやかな顔をしていた。この仲間と、最後までやれて良かった。何にも成し遂げられなかったけれど、それ以上に大きなものを手にした気がした。それは仲間だったり、支えてくださった方への感謝だったり、自分の頑張りだったりするのだと思う。弓道をしていて良かった。優勝した時よりも、強くそう思えた。私は弓道を通してかけがえのないものを手に入れたと思っている。

私たちは、なぜ応援するのだろうか。サッカーの試合では多くのサポーターがスタンドで声を出す。オリンピックでの自国の選手の活躍をテレビの前で見守る…。一生懸命な姿に心が動かされるからだと思は思う。スポーツには人をひきつけて離さない不思議な力がある。それは競技する側

にも、応援する側にもいえることで、スポーツの一番の魅力だと思う。そして、同じ目標に向かって進んでいく仲間や、導いてくれる指導者や、競技を通じてできた友人など、多くの人と出会い、つながるきっかけになる。

自分の得意なことを生かそう。好きな選手を応援しよう。どんなきっかけでもいから、自分が夢中になれるものを見つけしてほしい。目標に向かって努力する姿はまぶしく、やり遂げた達成感、負けた時の悔しさはお金では買えない。選手が必死に戦う姿は自分の刺激になり、自分を変えてくれることだってある。スポーツを通じて得た経験は、きつとかけがえのないものになる。誰かを応援する気持ちは、きつと励ましになり、力に変わる。人との出会いがあり、勇気や元気を与えたり、もらえたり……。野球の試合を見ていたとする。その瞬間にもう、何千何万という人とつながっているのだ。ホームランに喜び、失点に頭を抱え、勝利を喜び、負けを悔しがる。あんな選手になりたいと努力して、仲間に出会い、いろいろなことを経験して、次は見ていた側だった子どもたちが、夢を与える立場となっていく。

この七月の県総体の負けは、私の中で一つの通過点だ。まだ弓道が続けるつもりだし、今回果たせなかった全国大会出場を、いつか必ず叶えたい。スポーツは続く。仲間に出会い、恩師に出会い、ライバルに出会い、同じ競技を愛する人に出会う。この負けは私に、スポーツの本当の力を静かに教えてくれた。